



# 佛大Vision

---

# 2032

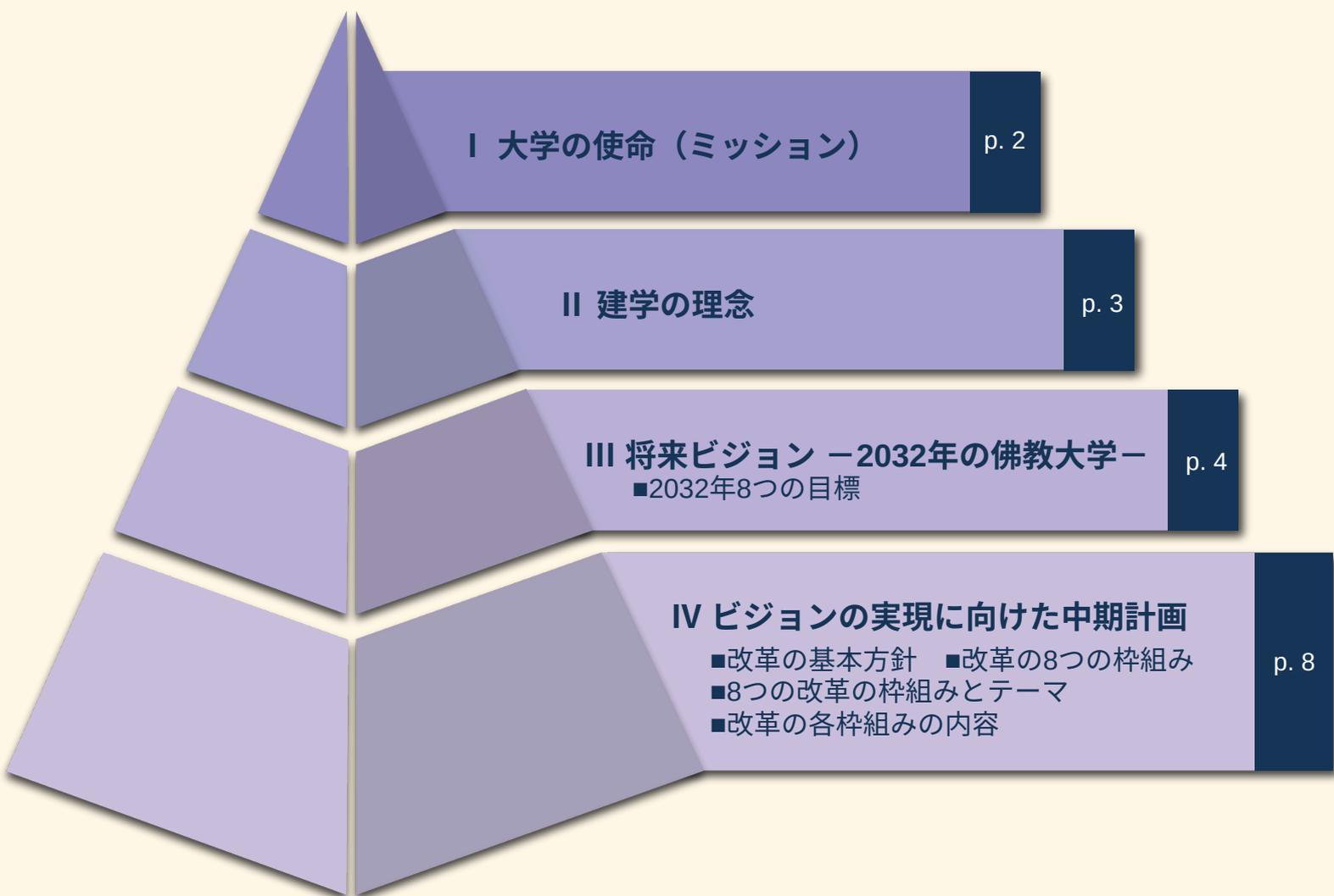


BUKKYO UNIVERSITY

ありがとうが、  
あふれる世界を。



# ビジョンの全体像



# I 大学の使命（ミッション）

## 大学の使命（ミッション）

本学は学校教育法（昭和22年法律第26号）に基き、  
仏教精神により人格識見高邁にして、  
活動力ある人物の養成を目的とし、  
世界文化の向上、  
人類福祉の増進に貢献することを使命とする。

（佛教大学学則第1条）

佛教大学は、学則第1条に示すとおり仏教精神を建学の理念とし、大学の責務である「人材養成」を中心として、それに関わる「教育」「研究」「社会貢献」の三領域において、仏教精神に基づく多様な活動を時代に即して行いながら、世界文化の向上と人類福祉の増進に貢献することを使命として、これを達成するためにふさわしい教育研究組織を設置しています。



## II 建学の理念

本学が建学の理念としている仏教精神とは、仏教を開いたゴータマ・ブッダ（釈尊）と浄土宗を開いた法然上人とに共通する生き方と考え方を指します。

釈尊は「私とは何か」「私はどう生きるか」そして「私は自分自身に何を期待できるのか」つまり私の生きる道＝人の生きる道を求めて修行し、その道を成就して、われわれに人として歩むべき道を説き示したのです。

一方、法然上人は、末法とも呼ばれた混乱の続く不安定な時代にあって、生きることに苦しみ、天災地変や戦乱の苦しみに喘ぐ人々の中で、大乘仏教に私の生きる道＝人の生きる道を求め、自己の愚かさを自覚し、念仏の道を体得し、すべての人が等しく導かれる道を説いたのです。

ブッダによってはじめられ、法然上人によって受け継がれた生き様と考え方こそ、「転識得智」なのです。それは現実の生き方の中で、常に己自身のあり方をしっかりと見つめながら、学んできた知識を人生のさまざまな場において何を為すべきか判断する力、実行してゆく力、すなわち生きる力へと転換してゆける智慧を得ることなのです。

この二人に共通する生き方こそが仏教精神に他なりません。この精神にのっとり、自らも生かされている社会において、他に幸せを分かち与え、他の苦をぬぐい去る慈悲のころもって、自らが生きていることを活かしてゆける人材の養成を目指します。



### III 将来ビジョン — 2032年の佛教大学 —

世界的な規模で社会が激しく変化し、これまでに経験したこともない状況や新しい課題が次々と生まれてくる今日、佛教大学が将来にわたって持続可能な大学であるためには、直面している諸問題に正しく向き合うとともに、本学の未来の姿を確実に描きだし、そこに向かって着実に歩み続ける必要があります。

Society 5.0(超スマート社会)と位置づけられるこれからの社会の姿は未だ明確な像を結んではおらず、「VUCA(不安定・不確実・複雑・曖昧)」と呼ばれる予測不能な時代の到来の中では、目指すべき 10年後の姿をイメージすることは容易ではありません。だからこそ、私たちは本学にとっての不確実な未来を、確実な将来とするために、2032年のゴールを「いま」あらためて提示します。

AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等といった今後の社会の根幹を形づくるツールやテクノロジーを活用し、DXが一層進んでいく社会の変化に即応するとともに、世界情勢の不安定化、新たなパンデミックの出現、気候環境の変化に伴う自然災害の増加、人口動態の推移にともなう社会構造の変容などを踏まえ、高等教育機関として建学の理念に基づく教育・研究・社会貢献活動を不断に継続し、地域や社会の要請に応えながら、大学の責務をしっかりと果たしていかなければなりません。

本学がこれまでに蓄積してきた人のつながりやリソースを活用して、さまざまな学びの機会を創出し、より多くの人々に向けて提供していくことで、人生100年時代の社会的なニーズにも応えていく必要があります。そのために、私たちは以下を2032年に到達すべきゴールと定め、そこに向かって全力で取り組んでまいります。





## ■ 2032年8つの目標

### 1. 仏教精神を持って歩み続ける人材の育成

学修者が自らの可能性を最大限に発揮するために、主体的に学ぶ姿勢を 確実に身につけ、周囲や環境の変化に柔軟に対応し、課題や困難から目をそむけず、仏教精神を携えながら、現実に向き合って歩むことのできる人材を育成している。

### 2. 社会の変容に適応した多様な教育の推進

デジタル社会から超スマート社会への変容に対応できるスキルを身につけるための教育課程を編成し、さまざまな人々との関わりの中で成長を促す場を設けながら、その中で学修者が個々の能力を超える学びの成果を獲得できる教育内容と教育方法を、不断の改革のもとで提供している。

### 3. 人生100年時代に相応しい学びの場の提供

デジタル社会の到来や進展への対応など、急激な社会の変容の中で求められるさまざまな力やスキルを身につけるために、あるいはリカレント・リスキリングといった形で再び学ぶために、そして人生100年時代に相応しい新たな学びに取り組むことを可能とする教育課程や教育機会を提供し続けている。

### 4. 多様な研究分野の連携・融合の促進

社会が劇的に変化していくなかであって、本学の使命と歴史を踏まえながら、不断に継続していくべき基礎的な研究を着実に蓄積するとともに、新たな社会的ニーズに対応するために、本学が有する研究領域や研究成果を学際融合的に積極活用した、応用的な研究を推進している。



## 5. 連携を基盤とした地域社会への更なる貢献

SDGsに代表される、将来に向けて社会全体が目指していく方向性を踏まえ、本学が果たすべき役割を明確に焦点化し、地域社会や産業界・自治体との緊密な連携協力関係を確立し、それらに基づいて地域社会へ貢献するための取組を着実に進めている。

## 6. 社会に必要とされるグローバル人材の育成

常にグローバルな視点をもって学び、考えながら、これからの持続可能な地域社会において必要とされる様々な役割を担い、他国の人々とも協働・共生することができる人材を送り出している。

## 7. ダイバーシティ&インクルージョンの展開

異なる国籍、人種、民族、文化、風習、性的指向等の融合が進み、さらに複雑化していく社会の中で、違った価値観を有する人々の存在を多様性（ダイバーシティ）として理解し、さまざまな考えや意見を尊重して受け容れながら（インクルージョン）、他者に対する思いやりの心を持ち、人と人との橋渡しとすることができる人材育成を目指した活動を展開している。

## 8. 不断の改革実行と持続可能な大学基盤の確立

時代の要請に応じた持続可能な大学組織を構築するための不断の改革の実行、それを具体的に展開することを可能とするキャンパス整備、本学を取り巻くステークホルダーとの連携関係、ならびにビジョンの実現に向けた教職協働の体制を強化するとともに、2032年以降の将来に向けても持続可能となる財政基盤を確立している。



## IV ビジョンの実現に向けた中期計画

### ■改革の基本方針

仏教精神に基づいて、国籍・年齢・性別・価値観などに左右されない、すべての人に開かれた教育機会を実現することで、多様でwell-beingな社会を実現する。

そのために、紫野・二条のキャンパスゾーニングに基づいた特色ある教育研究を推進しつつ、デジタル革新・DXによる社会変化に即応しながら、内部質保証による不断の改革実行によって教育研究・学内業務を変革し続けることで、大学としての責務を果たし続ける。

### ■改革の8つの枠組み



## ■8つの改革の枠組みとテーマ



## ■改革の各枠組みの内容

### 1. 教育

No	取組内容	2027年度に目指す状態	参照指標
①	DPに到達できることを保証する教育内容と教育方法の展開	学部学科毎のDP到達に必要な教育方法と教育内容が具体化している	<ul style="list-style-type: none"> <li>•学生の授業満足度</li> <li>•学生の学習成果</li> </ul>
②	「仏教で考える」関連科目の確立	全学共通や、生涯学習のコンテンツとして提供する。生涯学習のマイクロクレデンシャル×オープンバッジによる完全オンライン/ハイブリッド選択型コースの検討が行われている	<ul style="list-style-type: none"> <li>•「仏教で考える」関連科目群の受講人数</li> </ul>
③	「社会で生きるための力」を身につけるためのキャリア教育の充実	佛教大学の基礎力として必要なキャリアの力を形成するために必要なキャリア教育科目が、共通教育及び専門教育で整備されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>•共通教育と専門教育でのキャリア教育科目整備状況</li> </ul>
④	超スマート社会に必要なICTスキルが身につく教育課程の編成	AI/DS関連科目として「MDASH-Literacy」認定が開講され、学習歴証明としてのオープンバッジ発行も整い、在学生の履修ニーズが高まっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>•AI/DS 関連科目の受講人数</li> </ul>
⑤	2026以降の改革継続を前提とした大学院・学部学科・通信教育課程の不断の改革	2026以降の改革が進み、2030年次改革の構想が出来上がっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>•志願者、入学者の変化</li> <li>•入学者の DP 理解度</li> </ul>
⑥	オンラインを最大限活用した、距離や時間の壁を越える遠隔教育手法の拡充	2026に共通教育の完全オンライン化が実現。2027年にはメタバースキャンパスの計画が具体化し、実習・実験等もメタバース上で行う計画が検討されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>•完全オンラインの授業数</li> </ul>
⑦	通学・通信の一体化を実現し、希望に応じて行き来できるモデルの構築	通学・通信の行き来で可能となる機会やメリットが学内外に発信でき、利用検討者が出現している	<ul style="list-style-type: none"> <li>•在学生の制度認知度</li> <li>•在学生の利用者数（割合）</li> </ul>

## 2. 学生支援

No	取組内容	2027年度に目指す状態	参照指標
⑧	個別ニーズのみならず、多くの学生に共通する潜在ニーズの継続的把握	学生支援窓口に来ない学生を含め多くの学生に共通するニーズ把握ができ、「とても満足」の比率・「本学を勧めたい」比率を指標としたデータが収集できている	•卒業時満足度と推奨意向
⑨	大学が提供する機会・サービスの認知と学生の参加促進	機会・サービスの認知率が把握でき、その上昇によって参加者数が増加している	•サービス・機会の認知率 •サービス・機会の参加者数
⑩	通信教育課程ならではのニーズを踏まえた学生支援の検討と拡充	通信教育課程ならではの学生ニーズ把握ができ、そのニーズに対応することで、学生満足度と学習の継続率を向上させることができている	•学生満足度 •継続率
⑪	学生自身が振り返り、成長実感を持つことができる学生ポートフォリオの充実	学生ポートフォリオを使ったリフレクションが定期的に行われている	•学生の学習成果 •ポートフォリオ利用率
⑫	進路支援体制の充実、数値化での可視化による、高い進路決定率、高い進路満足度の継続	本学の進路決定率・進路満足度の目標数値を設定し、進路状況を数値で把握するとともに、施策を充実させることで、目標値が達成できている	•進路状況（就職者数・率、進学者数・率） •進路満足度

## 3. 研究

No	取組内容	2027年度に目指す状態	参照指標
⑬	学術の発展に資するような、また社会的ニーズに応えるような、評価をともなう研究の推進	アクセスされ、引用される論文が増加するとともに、シーズ集を拡充している	•論文件数 •アクセス件数 •引用件数 •研究成果発表会件数
⑭	本学が有する研究領域・成果を学際融合的に積極活用した共同研究の推進	シーズ集の公開により学際融合研究が複数進んでいる	•シーズ集の研究掲載件数 •新たな学際融合研究件数

## 4. 地域連携

No	取組内容	2027年度に目指す状態	参照指標
⑮	産官学公連携の推進と教育研究活動の正課内外への拡大	産官学公連携が増加し、学生の参加機会も増加している。	•産官学公での連携件数
⑯	大学の資源（教育研究活動や成果、人材等）を活用した地域連携の推進	大学の資源を活用した地域連携が新たに複数生まれている	•新たに生まれた地域連携件数
⑰	キャンパスゾーニングに基づく二条地域での地域連携の推進	「福祉・医療・健康・地域」をコンセプトとし、立地を活かした取り組みによる地域連携が進展している	•（計画が具体化している）

## 5. 生涯学習

No	取組内容	2027年度に目指す状態	参照指標
⑱	選択型完全オンラインのコース実現と、マイクロクレデンシャル×オープンバッジによる新規学修機会の提供	「DS/AI関連科目」「各専門領域での社会ニーズに対応する科目群」「仏教で考える関連科目」「京都関連科目」などが、マイクロクレデンシャルとしてオープンバッジによる学習歴と共に科目履修のパッケージとして提供できている	•科目履修パッケージの受講人数
⑲	大学を選択する際に、通学課程と同様に選択肢に入る通信課程の確立	通学課程と選択肢として並ぶ通信教育課程を確立している	•通信教育課程の進学者数 •通信教育課程の新高卒進学者数
⑳	O.L.C.の位置づけの再定義に基づく新たな展開と収益構造改革	O.L.C.の目的と位置づけを明確化した上で展開が実施できている	•収支 •講座数 •会員数・参加者数

## 6. 学生募集

No	取組内容	2027年度に目指す状態	参照指標
⑳	学生募集を中心に置いた、新增設を含む学部学科改組の推進	学生募集市場を見ながら、志願者の獲得・入学定員の充足の観点を中心とした改革議論が行われている	<ul style="list-style-type: none"> <li>志願者実数</li> <li>入学者数</li> </ul>
㉑	募集広報戦略立案に重要なデータの明確化と活用による、全学的な募集広報活動の推進	学生募集上の検討施策をより効果的にするための、周囲の理解促進と知見・経験を補強する機械学習分析手法の導入と活用が進み、学生募集状況がモニタリング可能となっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>志願者実数</li> <li>入学者数</li> <li>セグメント別の募集プロセス数字</li> </ul>
㉒	2026改革を成功に導く入試戦略の策定と実行	2026改革による募集の実志願者が増加し、全学部学科の入学定員を充足している	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026 志願者実数</li> <li>2026 入学者数</li> </ul>
㉓	探究・高大接続プログラム開発による高校との接点拡大	探究・高大接続プログラムが進展し、その接点を活かした入試比率が上昇している	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究施策・高大接続の件数</li> </ul>

## 7. グローバル

No	取組内容	2027年度に目指す状態	参照指標
㉔	外国人学習者受け入れ態勢の構築	グローバル化計画の策定とそれを視野に入れた事務体制を確立している	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生数/外国籍学生数</li> </ul>
㉕	多様な国籍の人々との協働・共生機会としての留学生増と学生の海外経験者増	海外研修や留学プログラムを拡充することで学生の海外経験者が増加し、日本国内で外国人学習者・居住者のコミュニティに入っていく機会も増加している	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外提携数</li> <li>学生の海外経験者数</li> <li>外国人留学生数</li> </ul>
㉖	将来のグローバル市場を視野に入れたICT環境整備	完全オンライン、多言語対応を推進する上での論点が明確となり、LMSの選定等が具体化している	<ul style="list-style-type: none"> <li>(計画が具体化できている)</li> </ul>
㉗	将来のグローバル市場を視野に入れた教育コンテンツ整備	グローバル市場をターゲットにする教育プログラムが、完全オンライン型、ハイブリッド型、リアル型、それぞれで具体化できている	<ul style="list-style-type: none"> <li>(計画が具体化できている)</li> </ul>

## 8. 組織・経営

No	取組内容	2027年度に目指す状態	参照指標
②9	ICT戦略の策定と推進	ビジョン実現戦略における優先順位とICT戦略が結びつき、教育DX・業務DXのICT基盤と組織が整備され、ビジョンで描かれた教育DX・業務DXが進んでいる	•戦略に基づく推進状況
③0	キャンパスゾーニングを踏まえた紫野・二条の構想と施設設備計画の推進	2キャンパス運営のための中長期的な施設設備計画を確立し、その計画に則った環境整備が進んでいる	•計画に基づく達成状況(%)
③1	本学の教育研究活動の魅力発信、ならびに同窓会との連携強化によるブランド力の向上	本学の教育研究活動の魅力、ビジョンと取組が学内学外に発信され、その浸透による教職員・同窓生の帰属意識向上が具体的な目標となっている	•ビジョンと取組の学内外浸透度合い •教職員の帰属意識 •同窓生の帰属意識
③2	人材育成と研修制度の充実	SD研修規程が整備され、教職員全員が研修に参加している。大学運営に必要な人材の育成を効果的に進めるための研修制度を確立している	•SD研修の実施状況と参加状況 •職位・職能に応じた研修実施状況と参加状況
③3	組織力強化に向けた、人事計画・人事制度設計・ガバナンス・危機管理の推進	あるべき教職員像に基づいた人事評価制度の検討が進み、業務監査・外部評価が進むことで組織ガバナンスが強化され、ビジョン実現に向けて全学的に取組が進んでいる	•ビジョンの達成度合い •組織コンディションスコア
③4	財源の多様化の促進	経常費補助金等の拡大、寄付金の拡大、新たな収益事業の開始により、授業料収入以外の財源が拡大している	•補助金件数 •寄付金件数 •収益事業構想件数
③5	ビジョンと結びついた財政計画	ビジョン実現戦略における優先順位と財政計画が結びつき、予算執行ができています	•ビジョンの取組内容に対する予算執行件数、執行金額

## ■ 35の取り組み内容

- ① DPに到達できることを保証する教育内容と教育方法の展開
- ② 「仏教で考える」関連科目の確立
- ③ 「社会で生きるための力」を身につけるためのキャリア教育の充実
- ④ 超スマート社会に必要なICTスキルが身につく教育課程の編成
- ⑤ 2026以降の改革継続を前提とした大学院・学部学科・通信教育課程の不断の改革
- ⑥ オンラインを最大限活用した、距離や時間の壁を越える遠隔教育手法の拡充
- ⑦ 通学・通信の一体化を実現し、希望に応じて行き来できるモデルの構築
- ⑧ 個別ニーズのみならず、多くの学生に共通する潜在ニーズの継続的把握
- ⑨ 大学が提供する機会・サービスの認知と学生の参加促進
- ⑩ 通信教育課程ならではのニーズを踏まえた学生支援の検討と拡充
- ⑪ 学生自身が振り返り、成長実感を持つことができる学生ポートフォリオの充実
- ⑫ 進路支援体制の充実、数値化での可視化による、高い進路決定率、高い進路満足度の継続
- ⑬ 学術の発展に資するような、また社会的ニーズに応えるような、評価をともなう研究の推進
- ⑭ 本学が有する研究領域・成果を学際融合的に積極活用した共同研究の推進
- ⑮ 産官学公連携の推進と教育研究活動の正課内外への拡大
- ⑯ 大学の資源（教育研究活動や成果、人材等）を活用した地域連携の推進
- ⑰ キャンパスゾーニングに基づく二条地域での地域連携の推進
- ⑱ 選択型完全オンラインのコース実現と、マイクロクレデンシャル×オープンバッジによる新規学修機会の提供
- ⑲ 大学を選択する際に、通学課程と同様に選択肢に入る通信課程の確立
- ⑳ O.L.C.の位置づけの再定義に基づく新たな展開と収益構造改革
- ㉑ 学生募集を中心に置いた、新增設を含む学部学科改組の推進
- ㉒ 募集広報戦略立案に重要なデータの明確化と活用による、全学的な募集広報活動の推進
- ㉓ 2026改革を成功に導く入試戦略の策定と実行
- ㉔ 探究・高大接続プログラム開発による高校との接点拡大
- ㉕ 外国人学習者受け入れ態勢の構築
- ㉖ 多様な国籍の人々との協働・共生機会としての留学生増と学生の海外経験者増
- ㉗ 将来のグローバル市場を視野に入れたICT環境整備
- ㉘ 将来のグローバル市場を視野に入れた教育コンテンツ整備
- ㉙ ICT戦略の策定と推進
- ㉚ キャンパスゾーニングを踏まえた紫野・二条の構想と施設設備計画の推進
- ㉛ 本学の教育研究活動の魅力発信、ならびに同窓会との連携強化によるブランド力の向上
- ㉜ 人材育成と研修制度の充実
- ㉝ 組織力強化に向けた、人事計画・人事制度設計・ガバナンス・危機管理の推進
- ㉞ 財源の多様化の促進
- ㉟ ビジョンと結びついた財政計画

# 佛教大学